慶應義塾大学麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニックの分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

1. 当研修プログラムには，様々な先進医療を担う基幹施設の慶應義塾大学病院をはじめ，地域の要として数多くの特徴ある専門研修連携施設が含まれる．連携施設の多くが東京都，神奈川県，埼玉県にあり，比較的狭い地域内で研修が完結できる．各施設とも，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた質の高い麻酔科専門医を育成する．
2. 研修開始後2年程度で必要経験症例を網羅可能である．加えて，**手術室における様々な局面に的確に対応できる臨床麻酔能力育成を第一に，集中治療，疼痛緩和治療，小児，心臓麻酔等の特殊麻酔分野への知識，技術も習得する．**また周術期管理に携わる他の専門職と良好なコミュニケーション能力も併せて育成する．
3. 本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．更に専攻医修了後を見据えた環境を整え，サブスペシャリティー研修や研究・大学院進学も後押ししている．

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修 4 年間の内，1 年目と 4 年目のおよそ 2 年を基幹施設である慶應義塾大学病院で研修する．2 年目と 3 年目の約 2 年間は，2 つ又は 3 つの専門研修連携施設にて研修を行う．地域医療維持の為，連携施設研修では特定の医療圏に偏らないローテーションを基本として，個々の興味のある分野も重点的に学べるよう考慮する．
- 研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業する．勤務時間はタイムカード等で施設毎に管理する．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮する．
- 専攻医個々の経験症例数の進捗状況，興味対象分野の変遷，家庭（出産や育児を含む）の状況，健康状態などに応じ，専門研修基幹施設や専門研修連携施設での研修期間は柔軟に対応する．しかしながら，フルタイム勤務が出来ず時間短縮勤務や当直免除等の配慮が必要となった場合，緊急手術や長時間大手術の経験が減り研修効果が下がる懸念も生じる．当プログラムでは，勤務維持ができるように該当する専攻医が相談できる担当部署を設けている．
- 専門医研修プログラム管理委員会（以降，管理委員会）を年1回，定期的に開催する．専攻医の研修状況を専門研修基幹施設および専門研修連携施設の責任者で共有し，専攻医が十分な研修を行えているかどうか確認する．また，専攻医との年複数回の面談やアンケートを介して，各専門研修施設の評価を行って，管理委員会の場で審議する．研修施設での指導体制が十分でないと感じられた場合，専攻医が研修プログラム統括責任者に対して直接，文書，電子媒体などの手段によって報告することを可能とする．研修プログラム統括責任者および管理委員会は，専攻医の報告に応じて研修施設およびコースの変更，研修連携病院からの専門研修指導医の補充，専門研修指導医研修等を検討する．

研修の具体例

- 1年目は慶應義塾大学病院の手術センターで1年間勤務する．手術麻酔を担当して，基本的な麻酔管理の技術や知識を習得する．2～3年目は主に連携施設にて，地域拠点病院でよく遭遇する緊急手術や重症症例に対応できる能力を養成し，希望に応じて心臓麻酔や小児麻酔の専門施設にて研修を行う．4年目は手術センター，痛み診療センター，集中治療センター，緩和ケアセンターをローテーションして，サブスペシャリティー領域の研修や手術室コーディネーターとして求められる知識や技術を習得する．各施設で，月数回程度の当直かオンコール業務を経験する．
- 手術麻酔研修では，手術前日までに指導医との入念な麻酔計画を立てる．また，手術当日のカンファレンスにてプレゼンテーションとディスカッションを行い，実際の術中管理に臨む．術中・術後に生じた問題点は，指導医との振り返りながら多くの臨床経験を積む．
- 診療日の土曜日には，月1回の頻度で論文抄読会や症例検討会および国内外の学会発表予演会を含むカンファレンスを行う．経験症例などの特殊麻酔に関する勉強会やシミュレーション教育を定期的に行う．年数回，各領域で活躍する講師を招き講演会を行い，その際は連携施設研修中でも参加できるようにする．

- 専門医取得・更新に必要な学術活動を推奨するため，基幹施設と連携施設で学術発表を最低でも年1回ずつ行う．専攻医は指導医のもとで発表の準備をはじめ，スライド作成や予演会を通じて口語発表に必要な技術を習得する．慶應義塾大学病院の教職員専用のホームページから主要な国内・海外雑誌はオンラインで閲覧可能のため，自主的な学びを深めることに活用できる．
- 本研修プログラムの連携施設には，川崎市立川崎病院（神奈川県川崎市）や済生会横浜市東部病院（神奈川県横浜市），さいたま市立病院（埼玉県さいたま市）などが研修連携施設に含まれている．専攻医は，大学病院だけではなく，地域拠点病院での研修連携を通じて当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

研修実施計画例

	A（標準 1）	B（標準 2）	C（集中治療）	D（心臓麻酔）	E（小児麻酔）
初年度	基幹施設	基幹施設	基幹施設	基幹施設	基幹施設
２年度前期	川崎市立川崎病院	済生会横浜市東部病院	さいたま市立病院	済生会横浜市東部病院	東京都立小児総合医療センター
２年度後期	川崎市立川崎病院	済生会横浜市東部病院	さいたま市立病院	東京都立小児総合医療センター	さいたま市立病院
３年度前期	済生会横浜市東部病院	東京都立小児総合医療センター	東京都立小児医療センター	榊原記念病院	国立成育医療研究センター
３年度後期	東京都立小児総合医療センター	川崎市立川崎病院	基幹施設（ペイン緩和）	榊原記念病院	国立成育医療研究センター
４年度前期	基幹施設（集中治療）	基幹施設（ペイン・緩和）	基幹施設（集中治療）	基幹施設（ペイン・緩和）	基幹施設（集中治療）
４年度後期	基幹施設（ペイン・緩和）	基幹施設（集中治療）	基幹施設（集中治療）	基幹施設（集中治療）	基幹施設（ペイン・緩和）

週間予定表

慶應義塾大学病院での専門研修1年目の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	非常勤	手術室	手術室	休み
午後	手術室	手術室	休み	非常勤	手術室	休み	休み
当直		当直			残り番		

第 2・第 4・第 5 土曜日が診療日

月～金　8 時 ～ 8 時 30 分　手術症例カンファレンス

土　　7 時 30 分 ～ 8 時　手術麻酔抄読会（月に 1 度，web 併用）

8 時 15 分 ～　小児麻酔勉強会（月に 1 度，web 併用）

9 時 30 分 ～　ICU 勉強会抄読会（月に 1 度，web 併用）

13 時 ～　科内カンファレンス（月に 1 度，web 併用）

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

慶應義塾大学病院

〒160 - 8582　東京都新宿区信濃町35　　TEL：03 – 3353 – 1211

URL：http://www.hosp.keio.ac.jp/

研修プログラム統括責任者：山田　高成

専門研修指導医：

山田　高成	（麻酔、集中治療）	星野　麗子	（麻酔、ペインクリニック）
小杉　志都子	（麻酔、ペインクリニック）	若宮　里恵	（麻酔、産科麻酔）
三笠　裕美	（麻酔、小児麻酔）	鈴木　悠太	（麻酔、集中治療）
福田　陽子	（緩和医療）	戸谷　遼	（麻酔、心臓麻酔）
御園生　与志	（麻酔）	生駒　祐介	（麻酔、集中治療）
大橋　夕樹	（麻酔、産科麻酔）	藤田　治人	（麻酔、集中治療）
壽原　朋宏	（麻酔、集中治療）	岡本　泰治	（麻酔、集中治療）
増田　祐也	（麻酔、区域麻酔）	小山　祐果	（麻酔、小児麻酔）
若泉　謙太	（麻酔、ペインクリニック）	関谷　由希	（麻酔）
伊原　奈帆	（麻酔、緩和医療）	加藤　英恵	（麻酔、小児麻酔）
阪本　浩平	（麻酔）	松沢　真奈	（麻酔、産科麻酔）
寅丸　智子	（麻酔、小児麻酔）	森川　紗希	（麻酔）
細井　卓司	（麻酔）		

専門医：

岡本　善基　（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号　：　3

特徴：経皮的心臓弁膜症手術や臓器移植を含む様々な先進的手術あるいは種々の合併症を有する患者手術等，**麻酔管理の質が問われる症例が数多くあり，**同時に必要経験症例数を遙かに上回る各診療科の手術麻酔が，**専門研修指導医のサポートの下で経験出来る．**抄読会やシミュレーション教育を積極的に行い，知識や技術の向上に日々努めている．学会発表や論文執筆は，経験豊富な指導医が支援している．手術麻酔に加えて，集中治療，ペインクリニック，緩和医療や無痛分娩など幅広く研修の機会を提供し，**研修プログラム終了後の進路を見据えた環境を整えている．**

2025年度麻酔科管理症例：9461例

経験必須症例	年間施設症例数
小児（6歳未満）の麻酔	4284症例
帝王切開術の麻酔	304症例
心臓血管外科の麻酔　　Ⅰ群 （腹部大動脈手術を含む）　Ⅱ群	218症例 466症例
胸部外科手術の麻酔	619症例
脳神経外科手術の麻酔	282症例

② 専門研修連携施設

1) 地方独立行政法人東京都立病院機構　東京都立小児総合医療センター

〒183-8561　東京都府中市武蔵台　2-8-29　TEL：042-300-5111（代表）

URL：https://www.tmhp.jp/shouni/index.html

研修実施責任者：西部　伸一

専門研修指導医：

西部　伸一　（小児麻酔）　　箱根　雅子　（小児麻酔）

山本　信一　（小児麻酔）　　佐藤　慎　（小児麻酔）

簑島　梨恵　（小児麻酔）　　千田　雄太郎　（小児麻酔）

伊藤　紘子　（小児麻酔）

専門医：

福島　達郎　（小児麻酔）　　和田　涼子　（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり，治療が困難な高度専門医療，救命救急医療，こころの診療を提供している．年間麻酔管理件数が4000件以上と症例数が豊富で，一般的な小児麻酔のトレーニングに加え，新生児麻酔，心臓麻酔，気管形成術の麻酔などの研修が行える．また，積極的に区域麻酔を実施しており，超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている．2019年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている．

2) 川崎市立川崎病院

〒210 - 0013　川崎市川崎区新川通12 – 1　TEL：044 – 233 – 5521（代表）

URL：https://www.city.kawasaki.jp/32/cmsfiles/contents/0000037/37856/kawasaki/index.html

研修実施責任者：森田　慶久

専門研修指導医：

森田　慶久　（麻酔，集中治療）　　平畑　枝里子　（麻酔，集中治療）

菅　規久子　（麻酔，集中治療）　　石渡　博昭　（麻酔、集中治療）

梶谷　美砂　（麻酔，緩和ケア）　　岡部　久美子　（麻酔）

奥田　淳　（麻酔，集中治療）　　瀬上　和貴　（麻酔）

出野　智史　（麻酔，集中治療）

麻酔科認定病院番号：199

特徴：川崎市立川崎病院は，病床数約700床を擁し，麻酔科管理の手術症例数は年間4000例を超える川崎市の地域基幹病院である．各診療科が揃い，移植外科や小児心臓外科等の特殊症例を除く，すべての診療科の手術を経験することができる．３次救急指定病院であり，緊急手術症例も豊富である．マンパワー，教育体制も充実しており，丁寧な指導を受けながら幅広く症例を経験できる．当院麻酔科では，画一的な麻酔にとらわれず，プロフェッショナルとして様々な状況に柔軟に対応できる懐の深い麻酔科医を育てたいと考えている．手術室業務のほかにICU業務も兼務しており，集中治療の研鑽も積むことができる．

3)　社会福祉法人恩恵財団済生会横浜市東部病院

〒230 - 8765　神奈川県横浜市鶴見区3 – 6 - 1　　TEL：045 – 576 – 3000（代表）

URL：https://www.tobu.saiseikai.or.jp/

研修実施責任者：佐藤　智行

専門研修指導医

佐藤智行（麻酔，集中治療）
谷口英喜（周術期管理，麻酔）
高橋宏行（集中治療，麻酔）
上田朝美（麻酔，集中治療）
斎藤郁恵（麻酔）
秋山容平（麻酔，心臓麻酔）
冨田真晴（麻酔）
佐藤貴紀（麻酔，集中治療）
三浦梢（麻酔）
鎌田高彰（麻酔，周術期管理）
玉井謙次（集中治療，麻酔）
中山博介（麻酔）
竹田渓輔（麻酔）
田中敬大（麻酔，心臓麻酔、区域麻酔）

専門医

佐藤雄生（麻酔，区域麻酔）
稲垣里穂（麻酔）
津田匠太（麻酔）
松岡雄治（麻酔）
松尾津波（麻酔）
宇佐美清吾（集中治療，麻酔）

麻酔科認定病院番号：1315

特徴：済生会横浜市東部病院は平成19年3月に開院し，地域に根ざした横浜市の中核病院として，そして済生会の病院として，救命救急センター・集中治療センターなどを中心とした急性期医療および種々の高度専門医療を中心に提供する病院である．また，急性期病院であるとともに，ハード救急も担う精神科，重症心身障害児（者）施設も併設されている．また，「より質の高い医療の提供」に加え「優秀な医療人材の育成」も重要な使命と考え，研修医，専門医の育成にあたっており，医師，すべての職員が，充実感をもって働くことができる職場環境の整備にも積極的に取り組んでいる．

4)　さいたま市立病院

〒336 - 8522　埼玉県さいたま市緑区三室2460番地　　TEL：048 – 873 – 4111（代表）

URL：https://www.city.saitama.jp/hospital/index.html

研修実施責任者：忍田　純哉

専門研修指導医：

忍田　純哉（麻酔）
中村　教人（麻酔，集中治療）
安藤　嘉門（麻酔，集中治療）
佐藤　正顕（麻酔，心臓麻酔）
石川　紗希（麻酔）
勅使河原　綾野（麻酔）

麻酔科認定病院番号：612

特徴：さいたま市立病院は，地域の基幹病院として，急性期医療を中心に高度な医療を提供するという使命・役割を果たしている．内容はあらゆる科・臓器・年齢にわたっており，麻酔の研修に不足は全くない．救急医療も積極的に推進しており，救命救急センターよりの 3 次救急や心臓外科や脳神経外科を含めた広い分野での緊急手術の麻酔管理の研修が可能である．また，NICU を完備した周産期センターを併

設しているので，ハイリスク妊娠患者の麻酔管理から，低体重の新生児麻酔まで研修可能である．がん診療拠点病院でもあるので，高齢者の管理を含め，がん関連の症例からも学ぶこと（疼痛管理も含めて）は多い．地域の高齢化もあり，骨折等の整形外科手術も多く，神経ブロックの習得にも有利である．

5)　地方独立行政法人東京都立病院機構　東京都立大塚病院

〒170 - 8476　東京都豊島区南大塚2丁目8番1号　　TEL：03 – 3941 – 3211（代表）

URL：https://www.tmhp.jp/ohtsuka/index.html

研修実施責任者：五十嵐　達

専門研修指導医：

五十嵐　達（麻酔，区域麻酔）　　佐々木　綾（麻酔，区域麻酔）

伊藤　祥子（麻酔，区域麻酔）　　奥田　奈穂（麻酔，区域麻酔）

専門医

大元　美季（麻酔）

麻酔科認定病院番号：472

特徴：総合周産期センターを併設しているため、一般的な麻酔管理に加えて産科麻酔や新生児・小児麻酔の十分な経験が可能である。ＩＣＵ研修を行える環境を整えているほか、日本区域麻酔学会指導医も在籍しており、神経ブロックについての専門的な知識と技術を学ぶことができる。また、無痛分娩を週5日行っており指導医のもとで研修することが可能である。看護師・薬剤師と共にAcute Pain Serviceの一員となり術後疼痛管理を学ぶことができる。

6)　独立行政法人国立病院機構　東京医療センター

〒152 - 8902　東京都目黒区東が丘2 – 5 - 1　　TEL：03 – 3411 – 0111（代表）

URL：https://tokyo-mc.hosp.go.jp/

研修実施責任者：吉川　保

専門研修指導医：

小林佳郎　(麻酔)　　安村里絵 (麻酔・集中治療・心臓麻酔･区域麻酔)

吉川　保　(麻酔・ペインクリニック)　　加藤奈々子　(麻酔・産科麻酔)

長田大雅　(麻酔・集中治療)　　吉武美緒　（麻酔）

櫻井裕教　(麻酔・集中治療)　　茂田宏恵　(麻酔)

森　庸介　(麻酔・集中治療・心臓麻酔)

専門医：

中川布有加　(麻酔)　　肌附里乃　(麻酔)

田中浩平　(麻酔)　　伊瀬谷沙織　(麻酔)

認定病院番号　221号

特徴：東京医療センターは旧国立東京第二病院といわれた昭和43年から臨床研修指定病院に指定され，伝統的に医療従事者の教育研修に熱心な施設である．近年は地域との結びつきの強い急性期病院として，救命救急センター・地域がん診療連携拠点病院・東京都災害医療拠点病院・地域医療支援病院などの指定を受けるとともに，高度先進医療にも取り組んでいる．そして当センターの理念

『患者の皆様とともに健康を考える医療の実践』を実行すべく，技術とシステムの改修に加え，診療・教育・研究を通して医療の質の向上を目指している病院である．
麻酔科としても，2016年から麻酔科術前外来を開設，2020年からAPSチーム，2021年から和痛チームが発足し，術前から術後まで周術期チームの核となるべく様々な取り組みを行っている．専門医以上のスタッフが多く，若手から中堅そしてベテランまでがバランス良く存在していることも特徴のひとつである．どの年代層も常に新しい事を取り入れ進化する努力を怠らないようにしている．臨床のみでなく、学会発表、論文投稿指導にも力をいれている。また医局の枠にとらわれず，国内外で活躍する当院麻酔科研修を終えた多くの麻酔科医と交流する機会があるのも魅力の一つである．

7)　国家公務員共済組合連合会　立川病院

〒190 - 8531　東京都立川市錦町4 – 2 - 22　　TEL：042 – 523 – 3131（代表）

URL：https://www.tachikawa-hosp.gr.jp/

研修実施責任者：羽鳥　英樹

専門研修指導医:

羽鳥 英樹 (麻酔、集中治療、ペインクリニック)　　乾 龍男 (麻酔)

福積みどり (麻酔)　　浅原　美保（麻酔）

小竹良文（麻酔、集中治療）　　渡邊 美子 (麻酔)

専門医：

岩田有紀　(麻酔)　　古田和睦　(麻酔)

認定病院番号:337

特徴: 東京都の南多摩地区にあり地域の急性期病院として多くの症例を受け入れている．東京都がん診療連携拠点病院，東京都周産期連携病院，東京都精神障害者身体合併症治療施設などの指定を受けており，一般的な周術期管理以外に産科麻酔や精神障害者の身体合併症症例など幅広い症例を経験することができる．また日本緩和医療学会の認定研修施設となっており，緩和ケアチームの一員として研修を行うことも可能である．そのほか患者支援センターや術後疼痛管理チームなど幅広い活動を行っており，専門的な知識の習得や経験を積むとともに他職種連携のチーム医療を通じて麻酔科医としてより多くのことを学び，成長することができる環境である．

8)　国立研究開発法人　国立成育医療研究センター

〒157 - 8535　東京都世田谷区大蔵2 – 10 - 1　　TEL：03 – 3416 – 0181（代表）

URL：https://www.ncchd.go.jp/

研修実施責任者：糟谷　周吾

専門研修指導医：

糟谷　周吾（麻酔）　　山下　陽子（麻酔、周産期）

大原　玲子（麻酔、周産期）　　行正　翔（麻酔）

馬場　千晶（麻酔）　　古田　真知子（麻酔）

佐藤　正規（麻酔、周産期）　　浦中　誠（麻酔、心臓血管）

蜷川　純（麻酔、心臓血管）　　橋谷　舞（麻酔、心臓血管）

伊集院　亜梨紗（麻酔、周産期）　　岩田　裕貴（麻酔）
兒玉　洋介（麻酔）　　岩田　愛理（麻酔、周産期）
久米　澄子（麻酔、周産期）

認定病院番号：87

特徴：

・国内最大の小児・周産期・産科・母性医療の専門施設で，小児（手術・検査等）・周産期の麻酔管理（帝王切開・無痛分娩・EXIT等）について，指導者の下で経験・習得できる．
・国内最大の小児集中治療施設で，救急・重症疾患の集中治療管理を経験・習得できる．
・小児の移植（肝臓・腎臓・小腸・心臓）の周術期管理を経験できる．
・先天性心疾患を有する麻酔管理（手術・カテーテル検査）を経験できる．
・小児がんセンター，緩和ケア科があり，小児緩和医療を経験できる．
・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制がある．
・麻酔科管理症例　約6600症例，帝王切開約800症例，無痛分娩約1200例

9)　独立行政法人　地域医療機能推進機構　埼玉メディカルセンター

〒330 - 0074　埼玉県さいたま市浦和区北浦和4 – 9 - 3　　TEL：048 – 832 – 4951（代表）
URL：https://saitama.jcho.go.jp/

研修実施責任者：永渕　万理
専門研修指導医：永渕　万理（麻酔）　藤田　淳子（麻酔）　植松　明美　（麻酔）

認定病院番号：255

特徴：埼玉メディカルセンターは地元浦和および埼玉県さいたま地区を二次医療圏に持つ地域の第一線病院です．前身の埼玉社会保険病院の開院から約70年，地域に根付いた医療を提供しています．当院は人工関節センターを運営しており，地元医師会や近隣開業医との連携のもと人工膝関節置換術（年間250件強）を行っています．特殊な疾患や稀な合併症をもつ手術患者は少なく，ほとんどが日頃良く遭遇する疾患や合併症の麻酔管理です．

10) 川崎市立井田病院

〒210 - 0013　川崎市中原区井田2 – 27 - 1　　TEL：044 – 766 – 2188（代表）
URL：https://www.city.kawasaki.jp/33/cmsfiles/contents/0000037/37855/ida/

研修実施責任者：中塚　逸央
専門研修指導医：中塚　逸央　（麻酔）　伊東　真吾（麻酔，集中治療）

認定病院番号：1284

特徴：当院は，地域の医療ニーズに合わせて救急対応病棟を設置，急性期から退院への橋渡しを行う地域包括ケア病棟，1998年開設の緩和病棟，現在では川崎市内で唯一結核入院設備を有しており，癌診療，健和ケア，在宅医療に至るまで地域医療の充実が得られるよう対応している．また2022年には神奈川県災害拠点病院に指定，2024年に地域医療支援病院として承認された．麻酔科管理症例は外科，泌尿器科，整形外科の症例が多く泌尿器科では手術支援ロボット・ダビンチを使用した前立腺や膀胱手術を行っている．信頼される医療を提供できるよう臨床能力を高めるとともに，患者さんはもとより他の医療職とのコミュニケーション能力を身に付けられる医師の育成に尽力している．

11) 静岡県立静岡がんセンター

〒441 - 8777　静岡県駿東郡長泉町下長窪1007番地　　TEL：055 – 989 – 5222（代表）

URL：https://www.scchr.jp/index.html

研修実施責任者：安藤　憲興

専門研修指導医：

安藤　憲興　（麻酔一般）　　小石川　亜矢(麻酔一般)

玉井　直　　（麻酔一般）　　井出　利恵　（麻酔一般）

籾山　幸紀　（麻酔一般）　　山下　麻子　（麻酔一般）

江間　義朗　（麻酔，ペインクリニック）　　山口　貴章　（麻酔一般）

長崎　晶美　（麻酔一般）

麻酔科認定病院番号：972

特徴：がん全般の手術，ダヴィンチ手術（直腸，前立腺・腎，胃，子宮，肺・縦郭，食道）週１４件程度，胸部外科（肺・縦郭・食道）週１０件以上，開頭術週２件程度.

12) 国立研究開発法人　国立循環器病研究センター

〒564 - 8565　大阪府吹田市岸部新町6番1号　　TEL：06 – 6170 – 1070（代表）

URL：https://www.ncvc.go.jp/

研修実施責任者：前田琢磨

専門研修指導医：金澤裕子　前田琢磨　南公人　下川亮　月永晶人　森永將裕　三浦真之介

認定施設番号：168

特徴：センター手術室は 12 室であり，そのうち 4 室はハイブリッド手術室です．ロボット手術専用室や COVID 対応陰圧手術室も設置しています．特に冬は緊急大動脈解離手術が多くなります．劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです．心臓移植はおよそ月 1 回程度あります．麻酔科医はスタッフ 8 名レジデント 18 名で対応しています．休日を含めた毎日，麻酔科医 2 名が当直，オンコール 1 名ですべての緊急症に対応しています.

13) 公益財団法人　榊原記念財団　附属　榊原記念病院

〒183-0003 東京都府中市朝日町３丁目１６－１　TEL: 042－314－3111（代表）

URL：https://www.hp.heart.or.jp/

研修実施責任者：清水　淳（麻酔一般，心臓麻酔）

専門研修指導医：一瀬　麻紀　（麻酔一般，救急医療）

古市　結富子　（麻酔一般，心臓麻酔，集中治療）

認定病院番号　第1441番

特徴：急性期医療を中心とした，あらゆる年齢層を対象とした循環器疾患の専門施設である．小児先天性心疾患を含む開心術だけでなく，最先端のカテーテル治療の周術期管理を豊富に経験できる．また他科・他職種間の垣根が低く，カンファランスや実地臨床を通じて幅広い知識を得ることができる．地域医療支援病院である.

14) 埼玉医科大学総合医療センター

〒350 - 8550　川越市鴨田1981番地　　TEL：049 – 228 – 33411（総合案内）

URL：http://www.kawagoe.saitama-med.ac.jp/

研修実施責任者：鈴木 俊成

専門研修指導医：

小山 薫 （麻酔，集中治療）
照井 克生 （麻酔，産科麻酔）
小幡 英章 （麻酔，ペインクリニック）
鈴木 俊成 （麻酔，区域麻酔）
田村 和美 （麻酔，産科麻酔）
佐々木 麻美子 （麻酔，小児麻酔）
山家 陽児 （麻酔，ペインクリニック）
加藤 崇央 （麻酔，集中治療）
田澤 和雅 （麻酔）
加藤 梓 （麻酔，産科麻酔）
北岡 良樹 （麻酔，心臓麻酔）
佐々木 華子 （麻酔）
金子 恒樹 （麻酔，産科麻酔）
吉田 由惟 （麻酔，産科麻酔）
伊野田 絢子（麻酔）
金子 友美（麻酔）
黒川 右基 （麻酔、集中治療）
坂本 尚子 （麻酔、集中治療）
岡田 啓 （麻酔、集中治療）
岩山 香坂 （麻酔、産科麻酔）
原口 崇 （麻酔、産科麻酔）

専門医：

黒木 将貴 （麻酔、心臓麻酔）
大久保 訓秀 （麻酔、集中治療）
野口 翔平 （麻酔、産科麻酔）
松浦 千穂 （麻酔、産科麻酔）
篠崎 奈可 （麻酔）
永井 隆文 （麻酔）
高山 瑠衣 （麻酔）
木村 亜紀子（麻酔）
横谷 円（麻酔）
松本 木綿子（麻酔）
小島 拓也 （麻酔）
吉田 賢一 （麻酔）
境田 文威 （麻酔）

認定病院番号：390

特徴：県内唯一の総合周産期母子医療センターがあり，高度救急救命センターにはドクターヘリが設置されている．急性期医療に特化した麻酔管理のみならず，独立診療体制の産科麻酔，ペイン，集中治療のローテーションが可能で，手術室麻酔のみならずオールラウンドな麻酔科医を目指すことができる．

15) 地方独立行政法人東京都立病院機構　東京都立多摩総合医療センター

〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29　　TEL：042-323-5111（代表）

URL：https://www.tmhp.jp/tama/index.html

研修実施責任者：山本　博俊

専門研修指導医：

山本　博俊（麻酔，心臓血管麻酔）
渡邉　弘道（麻酔，神経ブロック）
臼田　岩男（麻酔，心臓血管麻酔）
阿部　修治（麻酔，ペインクリニック）
田辺　瀬良美（麻酔，産科麻酔）
松原　珠美（麻酔）
三井　裕介（麻酔）
北條　貴也（麻酔）

平林　清子（麻酔）
本田　亜季（麻酔）
稲吉　梨絵（麻酔）
滝島　千尋（麻酔，ペインクリニック）
小松　郁子（麻酔，神経ブロック，心臓血管麻酔）
神保　一平（麻酔，救急医学）
稲垣　翔子（麻酔，心臓血管麻酔）
江村　彩（麻酔）
土屋　愛依（麻酔）

専門医：
原　有梨香（麻酔）
華岡　万貴（麻酔，心臓血管麻酔）
湯本　由志（麻酔）
奥富　由貴（麻酔）
重松　純子（麻酔）
堀場　容子（麻酔）

認定施設番号：89

特徴：多摩地域における唯一の総合的な医療機能を持つ都立病院として，11の重点医療を定めて高度専門医療を実施している．その中でも救急医療，がん医療，周産期医療を三本柱として重視している．多数の外科系診療科がまんべんなくそろっており，症例は豊富でバラエティに富んでいる．緊急手術特に産科の緊急手術が多いのが特徴である．

16) 東海大学医学部附属病院

〒259 - 1193　神奈川県伊勢原市下糟屋143　　TEL：0463 – 93 – 1121（代表）

URL：https://www.fuzoku-hosp.tokai.ac.jp/

研修実施責任者：鈴木 武志

専門研修指導医：
鈴木 武志（麻酔，集中治療）
伊藤 健二（麻酔、ペインクリニック）
渡邊　真理子（麻酔、臨床研究）
瓜本 言哉（麻酔、心臓血管麻酔）
姜 卓義（麻酔、基礎研究）
細井　貞則（麻酔、心臓血管麻酔）
伊藤 美保（麻酔，緩和医療）
野村　準（麻酔、区域麻酔）
鈴木　雄大（麻酔、ペインクリニック）
竹中　恭一郎（麻酔、区域麻酔）
山田　悠輔（麻酔、小児麻酔）
梅本　みずき（麻酔、小児麻酔）
白勢　康介（麻酔、集中治療）
高橋　柊哉（麻酔、区域麻酔）
河本　秀香（麻酔、心臓血管麻酔）

認定病院番号：116

特徴：麻酔科管理手術症例が年間9000件を超え，三次救急を行っているため外傷を含めた緊急手術も多く，心臓外科・呼吸器外科・小児外科などの特殊麻酔も豊富で，近年はロボット支援下手術も数多く行われています．専門医になるための必要症例数を十分に経験できます．院内急変患者や術後重症患者を管理する集中治療室は32床のベッドを有し，今後は麻酔科医も集中治療管理へさらに関わっていく予定です．勉強会，学会発表も積極的に行っております．

17) SUBARU健康保険組合**太田記念病院**

〒373-8585　群馬県太田市大島町455番地1　TEL : 0276-55-2200（代表）

URL：https://www.ota-hosp.or.jp/

研修実施責任者：矢島聡

専門研修指導医：

矢島　聡　（麻酔，集中治療）　　山田　紅緒（麻酔，集中治療）

松本　晶平　（麻酔，集中治療）　　前原　智（麻酔，集中治療）

小澤　拓郎　（麻酔，集中治療）　　中田　翔（麻酔、集中治療）

大島　正行　(麻酔，集中治療，心臓麻酔，ペイン)

高橋　佳奈子（麻酔，心臓麻酔，集中治療）

認定病院番号537

特徴：三県にまたがる広範囲の基幹病院として、心臓血管外科や脳神経外科、小児外科を含む多彩な手術麻酔を経験でき、若いうちから高難易度の症例に携わることができます。また救命救急センターを併設しているため、重症外傷や急性期管理のスキルを磨きやすく、周術期管理全般に強い麻酔科医を目指せる環境です。指導医との距離が近く、手技の機会が豊富に与えられるため、臨床現場での即戦力となる技術（気道管理や神経ブロックなど）を効率的に習得できます。

18) 東邦大学医療センター大橋病院

〒153 - 8515　東京都目黒区大橋2 – 22 - 36　　TEL：03 – 3468 – 1251（代表）

URL：https://www.ohashi.med.toho-u.ac.jp/

研修実施責任者：小板橋俊哉

専門研修指導医

小板橋俊哉（緩和医療、麻酔、集中治療）　　牧裕一（麻酔、集中治療）

豊田大介（麻酔）　　下井晶子（麻酔）

専門医

川原小百合（ペインクリニック、麻酔）　　坂本優安（麻酔）

阿部理沙（麻酔）

認定病院番号 ： 193

特徴：周術期センターが設置されており，麻酔科医，薬剤師，看護師，歯科衛生士による総合的な評価を行い，術前から術後まで安全で質の高い管理が可能となっている．ペインクリニックは麻酔科発足以来，慢性疼痛の診断と治療を全国に先駆け教室のテーマとしている．また，集中治療，呼吸ケアチームでも麻酔科が中心となり活動している．

19) 独立行政法人国立病院機構　静岡医療センター

〒441 - 8611　静岡県駿東郡清水町長沢762 - 1　　TEL：055 – 975 – 2000（代表）

URL：https://shizuoka-mc.hosp.go.jp/

研修実施責任者：小澤　章子

専門研修指導医：小澤　章子（麻酔，集中治療）　　今津　康宏　（麻酔，集中治療）

専門医：波里　純子（麻酔,集中治療）

麻酔科認定病院番号：866

特徴：当院は「循環器」,「がん医療」,「救急」及び「総合医療」を柱として地域の医療ニーズに応えている地域医療支援病院である．「地域循環器病センター」として静岡県東部の「循環器病」

に関する中核病院に位置付けられており，心臓血管外科の症例も豊富で，虚血性心疾患,血管疾患,循環器疾患の診療治療を経験できる．救急医療体制も充実しており，心臓血管外科は静岡県東部全域より救急を受け入れている．

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する．採用は書類審査と面接にて決定する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，慶應義塾大学麻酔科専門研修プログラムwebサイト，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

慶應義塾大学病院 麻酔学教室 教授 山田高成
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 TEL 03-3353-1211(内線61608)
E-mail keioanesresident@gmail.com
Webサイト URL：http://www.keio-anesthesiology.jp/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備を整えており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

慶應義塾大学病院にて指導医・上級医の指導の下，多様な手術や患者の周術期管理を安全に行う．年度末には ASA-PS 1～2 の予定手術症例の麻酔を独立して完結する力を養う．

専門研修２年目

主に地域の拠点病院に出向し，指導医・上級医の指導の下，一般的な緊急手術の周術期管理を安全に行う．オンコール・当直を経験して，緊急手術の麻酔を独立して完結する力を養う．

専門研修３年目

2 年目の経験を発展させ，連携施設で日頃遭遇する重症患者や緊急手術の周術期管理を行う．専門性の高い分野（心臓麻酔，小児麻酔）を希望する場合には，国立循環器病センターや東京都立小児総合医療センターなどの専門施設で研修する．年度後半ないしは 4 年目より順次，慶應義塾大学病院にて麻酔関連領域の研修を始める．

専門研修４年目

慶應義塾大学病院にて麻酔関連領域の研修と手術室運営業務の経験を積む．手術センターでは，連携施設で経験しにくい特殊な症例の（心臓麻酔，経皮的心臓弁膜症手術，小児頭蓋形成など）周術期管理を行う．集中治療センターでは，重症患者の管理（呼吸・循環・栄養・感染・腎代替療法など）を行う．痛み診療センターでは，痛みの定義と強さや性状の評価方法を学び，適切な治療法について理解を深める．緩和ケアセンターでは，多職種チーム医療における麻酔科医の役割を理解し，total pain の評価とオピオイドをはじめとする薬物療法について理解を深める．いずれの研修においても専従の経験豊富な指導医が研修をサポートする．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年まで休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③　研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての川崎市立病院，さいたま市立病院，済生会横浜市東部病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業する．勤務時間はタイムカード等で施設毎に管理する．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮する．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には，当該施設の施設長，研修責任者に文書で通達・指導する．